

西光寺(四つ木)

東京都葛飾区四つ木

現在は天台宗で、創立は嘉禄元年(1225)と伝える。縁起によると、鎌倉御家人の葛西三郎清重が、数々の武功により葛西洪江村(現在の四つ木)に隠居した際、たまたま関東を教化していた親鸞聖人が清重の館に逗留することになった。

長雨により親鸞聖人の逗留は53日に及び、その間に弟子となり、西光房と称した。親鸞聖人は清重のために阿弥陀如来の絵像を与え、喜んだ清重は草庵を西光寺と名づけ、以来浄土真宗として法灯を伝えたが、永禄7年(1564)国府台の合戦で兵火にかかり、寺運衰退し、更に幾度かの水害で無住職状態となった。

寛永年間(1634～43)天台宗の旅僧が止宿して由緒ある法灯の絶えることを惜しみ、村民と図って天台宗の寺として再興し、浅草寺の門末として山号を超越山と改めた。

当寺では、報恩講式という法要を安永四年(1775)



西光寺(四つ木)本堂

以来、毎年4月8・9・10日に行っていたが、これは阿弥陀如来のお告げだという。

葛西三郎清重(西光坊)自刻の聖徳太子像があり、空洞になっている腹部には、親鸞聖人の作といわれる阿弥陀如来像が入っている。左手に笏、右手に柄香炉もつ、いわゆる「孝養像」。

西光寺(四つ木)・葛西三郎清重像

源平盛衰記に「治承4年(1180)頼朝卿、下総より出でて、浮橋を造て、軍勢を渡されし」と有りまた此の年、頼朝卿、常陸より鎌倉へ帰らるる時、

「十一月十日以武蔵國丸子庄賜葛西三郎清重
今夜御止宿彼宅 清重令妻女備御膳云々」

と、吾妻鏡に書かれている。

此の後多くは鎌倉に居て、頼朝の出入りに随従しなかった事は無かったという。凡そ頼朝、頼家、実朝三代の將軍に仕えて幾多の戦功により鎌倉將軍家より葛西領次第に加増され、都合3500町歩(約1000万坪)の領地を得た。清重は晩年、剃髪して壹岐入道と名乗り子孫は奥州に移り住んだ。

(「超越山西光寺略縁起」より)



西光寺(四つ木) 葛西三郎清重像